銀河戦国群雄伝 21
ライ
真鍋譲治
Dengeki Comics EX
DC EX
銀河戦国群雄伝ライ
21
真鍋譲治
DE-5-21
発行
メディアワークス

9784840212649

ISBN4-8402-1264-3

C0979 ¥930E

1920979009301

発行●メディアワークス

定価：本体930円 ※消費税が別に加算されます

DENGEKI COMICS EX

フォーチュン・クエスト①②
迎 夏生COMIC 深沢美潮STORY

央華封神①②
栗橋伸祐 原案友野 詳

銀河戦国群雄伝ライ①～㉑
真鍋譲治

魔狼王烈風伝①～⑧
沢田 翔

Nocturne～夜想曲～①②
栗橋伸祐

ガンドライバー①～⑤
ビトウ ゴウ原作
せたのりやす作画

リスティス①②
うたたねひろゆき

レジェンド・オブ・クリスタニア はじまりの冒険者たち①～③
姫川 明with HIURI PRO
水野 良原案
テレビアニメ版

神秘の世界エルハザード①～⑤

魔獣水滸伝KIZNA①②
ビトウ ゴウ原作
夏野すいか作画

太陽の少女インカちゃん①②
小野敏洋

メルクリウスプリティ①
西野 司

ドラゴンナイト4①②
富樫

がんばれ!プリンセスちゃん
ひぐちきみこ

流星雀士キララ☆スター
高雄右京

月極はっぴぃあばーとめんと
思い当たる

電撃ガオガイガー
竹田裕一郎、大森 葵ほか

仙木の果実
八房龍之助

「お嬢様特急」SDキャラコミック
お嬢様電車
森田屋すひろ

GUNばれ!ゲーム天国①
そうま竜也

髪切虫
ふくやまけいこ

宵闇眩燈草紙①
八房龍之助

RAI

BY JOJI MANABE

21

銀河戦国群雄伝

ライ

●ARTIST
JOJI MANABE

●EDITER
KATSUO ANDO

●BOOK DESIGN
TETSUYA ASAKURA

●SPECIAL THANKS TO
MASAHIKO YAMASHITA
TOSHIKI MORISHITA
HIRONORI NAGAI

深い愛情を寄せ合うことになる。正妻となってからは、戦場に赴く雷を陰日向に支えていく気丈な娘である。

【麗羅】れいら

雷の主君であった比紀弾正の娘。勝ち気な性格で、雷との絡みで紫紋とはよく対立し、反乱の罪を被せて紫紋を殺そうとしたこともあった。弾正の死後、国政を乗っ取るが骸羅に国を追われ、雷の許に転がり込み、第二婦人として、雷の第一子である梵天丸をもうける。一時険悪であった紫紋とも和解し、子育てに励んでいる。

【雲海入道】うんかいにゅうどう

雷の兵卒時代からの戦友。かつては高僧にも仕える身分であったが、大酒飲みが仇で宗門を追われた破戒坊主。だが、雷にとっては最も頼りになる豪傑である。終始、雷とは戦場を共にし、また、雷の密命を帯び、暴政下の武士都より麗羅を救出、無事雷の許に送り届けた。六紋海の決戦においては一軍を率いて奮戦し、雷を守る。

【孟閣】もうかく

冷静で勇猛な剛将で、南征以後、常に副官として、経験不足の雷を適切に補佐する。歴戦の強者であり、その豊富な戦歴に裏打ちされた知識と経験を基に、よく雷を助け、軍事部門の責任者として、その覇業に重きをなす。六紋海の戦いでは、息子の孟起と共に雷の身を案じ、奮戦する。

【三楽斎】さんらくさい

五丈の尚書令。師真に次ぐ、実質、五丈家臣団ナンバー2である。極めて有能な能吏派軍人であり、弁舌の才を持って雷を補佐し、外交、内政面においてその優れた才能を、遺憾無く発揮する。

【鐘士元】しょうしげん

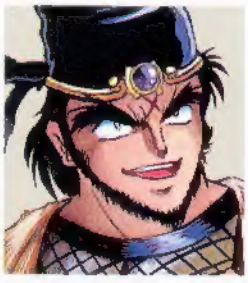
五丈軍の勇将。雷の師団長以来の宿将で、その勇猛果敢さで、常に先鋒を受け持ったが、師真のような新参者とは反りが合わず、対立した。だが次第にその知謀を認め、その指揮下に入り活躍する。

【姚文】ようぶん

鐘士元らと共に雷の股肱の臣である。やはり師真とは合わなかったが、その命には良く服し、戦功を重ね、雷の覇業の一翼をなす。よく書

をし、武勇一辺倒ではない男でもある。

【項武】こうぶ



雷の旗揚げ時からの宿将であった項焉の息子で、八十斤はあろう大斧を片手で軽く振り回す豪傑である。その武勇を買われ常に先鋒を任される。六紋海では、星海に散った項焉の仇を討つべく奮戦する。

【林則嘉】りんそくか

五丈軍の謀臣。若い頃は風采も上がらず誰にも相手にされなかったが、南京楼城内に出入りしている間に師真に見出され、雷輔翼の人物として師真と双璧をなすようになる。天才肌の師真に対して、地味ながら、その誠実さをもって数々の献策をし、雷の覇業を助ける。特に金州海の戦いに於いて、焦る雷を勇気を持って諫めたことは、その後の雷の成長を考えると特筆に値する。

【如海】じょかい

東河の七賢人と呼ばれた処士の一人。田舎に於いて晴耕雨読の生活を送っていたが、五丈を平定した雷により、三顧の礼を持って迎えられ、幕下に入る。

【孟起】もうき

孟閣の息子で五丈軍の第二世代を代表する青年武将。六紋海の戦いでは、遊軍を率いて八面六臂の活躍をする。

【装伯】そうはく

造船総監装民の甥。五丈軍の技術者の要の一人であり、装民の作った巨砲を自走砲艦として生まれ変わらせた。

【呂朱】りょしゅ

五丈軍の中堅武将。雷の挙兵に応じ、骸羅派の大守を殺して雷の許に馳せ参じた功により、奮威将軍に進んだ。

【鐘才】しょうさい

郡役所の下級官吏から鎮南将軍にまで登り詰めた苦労人。六紋海の戦いでは、後方遮断の任を任される。

【公叔】こうしゅく

如晦と並び東河の七賢人と呼ばれた賢士。雷に召され、軍政司等を歴任。外交手腕を買われて西羌との微妙な関係の維持を一任される。

大覚屋英真（だいがくやえいしん）

師真の弟で豪商大覚屋を擁しての南京楼産業界の若きリーダーである。その立場から雷の良き経済アドバイザーとして活躍、骸羅暴政後の五丈経済再建に大きく貢献するが、長引く戦乱に民が疲弊しきっていることを悟り、早期講和の道を模索し始める。

羅候（らこう）

南天王。父、羅鶴の死後、兵権を引き継ぐ。当初は南天の大国、智に従属していたが徐々にその勢力を広げ南蛮国土女、邑峻を娶りその地盤を強固なものにする。正宗の北伐時には、隙を突き南帝閣を占拠、虎丸を智土に立て正宗を失脚させる。南蛮王の死去後、その王位も継ぎ、練、南蛮二国の盟主となり南天に揺るぎない地位を築く。その後、正宗が復権すると見るや、素早く智領土の併合を謀り、正宗と智王を遙か、領土外に追いやる。次いで、天下統一の最後の障害である五丈に、空前の大軍団で侵攻するが、六紋海で完敗する。

姜子昌（きょうししょう）

練国きっての名将。羅候の竹馬の友である。若くして、練軍の大都督に就き、羅候を補佐し、練国の発展に尽力する。正宗による銀河統一を阻止するべく画策、幼王虎丸を立てて正宗を失脚に追い込む。だが、誰よりも正宗の恐ろしさを知っており、その警戒を怠らなかった。この度の北伐では、総大将に就任、師真と対決する。

諦庖（ていほう）

南天軍の若き武将で知勇に秀で姜子昌の片腕として活躍する。また、雷の許にお忍びで潜入した羅候のお目付役と、苦労も耐えない。

龍緒（りゅうしょ）

夏候獣と共に、琥瑛罵洲、羅候の二君に仕えた老臣。実質的には練の宰相職にあり、法令、兵法、いずれにも造詣が深く、北伐にも帯同はしているものの、数多い将官の中にあっては、慎重派である。

邑峻（ゆうしゅん）

南蛮王琥瑛罵洲の一人娘。羅候とは許婚の仲である。南蛮王国との連携を強めるために、羅候の許に輿入れ、優れた容姿と立て板に水の弁舌の才で、外向的謀略にも暗躍、この度も西羌軍を動かすことに成功する。

百人もの女兵士を従えるなど相当なじゃじゃ馬ではあるが、意外にも花嫁修行には熱心だった。とにかく羅候が好きで好きでたまらないという感じで、それ故に城内を餃子だらけにしてしまうなどいろんな騒動も起こす。羅候の本格的な北伐にも同行し、身重の身体でありながら、大鉈を振り回しての大奮闘した。

【金角・銀角】きんかく・ぎんかく

南天軍の兄弟武将。姜子昌の配下で六紋海の戦いで辛うじて生き残る。その後智への侵攻に失敗。その彼らの許に五丈の使者が…。

【神楽】かぐら

南天国の女武将。白象戦車隊を駆り八十斤の鎖鉄槌を振り回す猛者である。姜子昌にほのかな恋心を抱くが、六紋海の戦いで、善戦空しく、一度は破った項武に捕らえられ、そのまま彼の妻になる。それでも姜子昌への未練が絶ち難く、彼への想いを遂げようと、餃子づくりに精を出す。

【飛竜】ひりゅう

正宗の側近。姜子昌と共に兵学を学んだ仲ではあるが、互いに違う主君に仕えることによって、敵味方に分かれてしまう。正宗から絶大な信頼を受け、その死後、文字通り粉骨砕身、智国復興に励むが、五丈の進駐を阻めず。

【華玉】かぎょく

玄偉の腹心。李張導師の高弟で、その秘められた力で玄偉の暗躍を助ける。偽帝討伐時には師真と功を争うが、寸でのところで破れる。その後も刺客の梨扇を使い、雷暗殺を謀るが失敗。玄偉の滅亡と共に雷に降り、幕閣に迎えられる。

【李張】りちょう

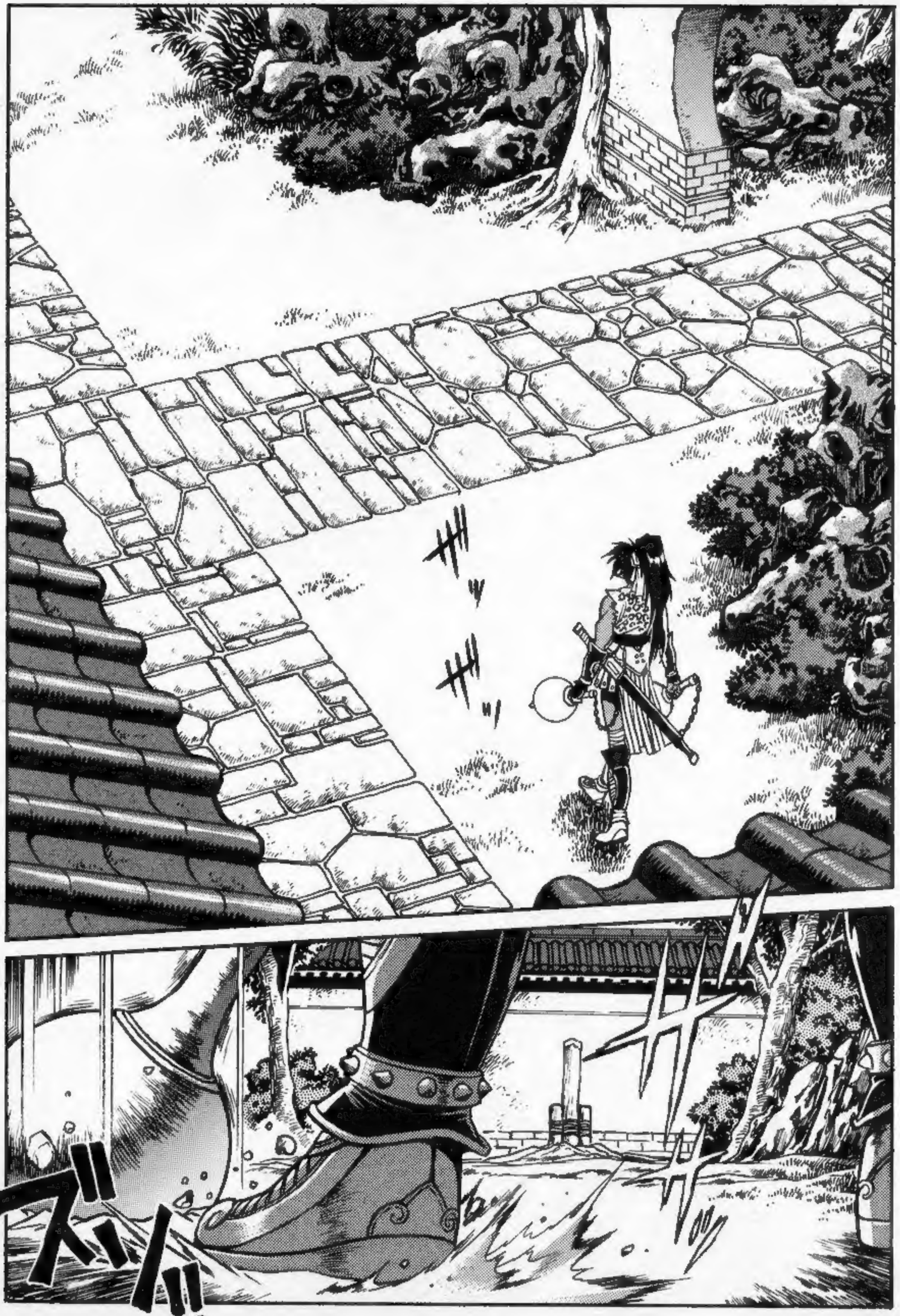
弾正の元軍師。その弟子には華玉、骸延など知謀の士が多い。銀河の覇者の出現を予見している。

【蘭々】らんらん

華玉の妹。共に李張に学ぶ。道師としてその能力は未知数だが、紫紋の良き友でもある。玉の輿を狙ったりするなど、なかなかのしたたか者である。

【秦宮括】しんていかつ

銀河の外周に位置する西羌国の統治者。雷の人間の大きさに感じ入った彼は雷との共存を謀るが…。


ズル!!

ぬん!!

ちっ！

くそうっ！

あ～あ
ちょっと前には
敵兵を屠え
上がらせた
この大鉄槌も
この様だよ

だめだだめだ
少しは身体を
動かさないと
ほんとに
なまっちゃう！

!!

これは…

ううう…

い…今のは…

奥方様(おくがたさま)？

そのよーで…

ドーン!!

ドドド

わ～～っ!!

えいっ くそ おとなしく せんか!!

どう どう!

ちくしょう だめだ!

危ねえぞ!! 退がれーっ!!

しょうがねえ 槍持ってこい!!

ソーカ城

てめえら
何(なに)して
やがる!?

げっ象使(ぞうつか)いの
女将軍(おんなしょうぐん)!!

あ…
いや項武様(こうぶさま)の
奥方様(おくがたさま)!!

あたしの
戦車隊(せんしゃたい)に指一本(ゆびいっぽん)
触(ふ)れてごらん!
ただじゃ
おかないよ!!

ふん!

お助(たす)けを~!!

ひぇーっ!!

会(あ)いたかったー!!

ドッ
ドッ
ドッ

生(い)きてたんだね!!

ふあああっ

う～～～
いかん
いかん

なんかこう
身体(からだ)が
シャキッと
しねえ!

…ったく
留守居役(るすいやく)なんぞ
三楽斎(さんらくさい)に
まかせとけば
いいんだ

俺(おれ)には
不似合(ふにあ)いだぜ

お暇のような大将軍

三楽斎!?

わたしも南京楼じゃ同じ境遇でしたからな

心中お察しします

ちっ！聞いてやがったな…！

いやー——いい天気ですなー

……

しょっこらしょっと

陛下や皆はどの辺まで行っちゃいましたかな

はい？

ようこそ三楽斎…

ズーーン。。

そりゃあもう！

俺は老けたか？

髪も髭も白いものが増えましたからなあ

お互い…

そうよなあ…

自分の息子と功を競う歳になったわけだ

老けもするわ…

孟閣殿

速く走ることだけがいい馬ではありませんぞ！

歩みは遅くとも道をよく知る…

それもまたいい馬の条件でしょう

ふ…

一副長として
竜王様を
お迎えして
はや十年余り…

陛下には夢のような
天下人の地位が
もう目の前だ

だが
その新しい世界が
どんなものか…

武功一途の俺には
詮いばかりでな…

将軍…

な…何だあ？

げげえっ!!
象(ぞう)!!

どどどどいたーっ!!

HAHAHA

神楽(かぐら)か!?

ほやほやしてると踏(ふ)み潰(つぶ)すよ!!

あのアホが!

ドドドドド!!

何かいったかい?

バカ野郎!
宮中で象を
駆るとは何事だ!!

早く降りろ!!

わあーっ!!

将軍!
何とかして下さいよ!!
留守居役でしょ!!

無茶いうな!
あんなのを素手でどうしろってんだ!!

そこを何とか…
最後の槍働きと思って!!

うるせえっ!

ほーれ
早よこい
早よこーい

ほれ
もうちょい
もう
ちょいや！

ほら
がんばれー

よーし
ようやったー!!

紫紋見(しもんみ)たかー
梵天丸(ぼんてんまる)はもう
こんなにハイハイ
できるよーに
なったんやー

ほんと
早いものね

あら
何(なに)かしら？

何(なに)か
騒(さわ)がしいな
何(なに)やっとん
のや？

大事(だいじ)ないと
思(おも)いますが…
見(み)て
参(まい)ります

地面(じめん)も
揺(ゆ)れてるよ

お願(ねが)いします

きゃあっ!!

え?

うわーっ
止まれ!
止まれ!

止まらんかーっ!!

わわっ
何やあれ!
変かいな!!

!!

神楽殿(かぐらどの)!!

竜王の妻紋です！

これは一体何事です!!神楽殿！

あんたは？

へえー どうりで…

すっげえ美人♡

あんたが…竜王の奥さん？

ふーん…

えーと…ちょっといいかな？

ぶるぶる!!

わー
何(なん)や
あいつ…!

そーいう
趣味(しゅみ)やったんか!?

ちょ…
ちょっと

神楽殿(かぐらどの)ったら!

は――…
やっぱりなー
竜王(りゅうおう)が
選(えら)ぶだけの
ことはあるな～

いやねー
英雄(えいゆう)豪傑ってのは
あんたみたいに
ポチャポチャ
柔(やわ)らかい方(ほう)が
好(この)みなのかなってさー

抱(だ)き心地(ごこち)も
いいだろうし…

え?
やっぱりて?

あたしなんか
逆立(さかだ)ちしても
無理(むり)なんだろうなぁ

神楽殿(かぐらどの)…

女(おんな)のよさは
そんなものだけじゃ
ありませんよ

神楽殿も
項武将軍と
お似合いじゃ
ないですか

何でも
仲良くお買い物
してらっしゃる
とか…

うわーっ
その話は
よせーっ!!

何だ
あんな奴!!

がさつだし
助平だし…

あたしゃ
銀河一の
不幸者だよ!

将軍は
ああは見えても
根は優しい方です

だから竜王様も
あなたを
嫁がせたのですよ

そやそや
雷のやることに
間違いあらへん!

おまえも
早よ
ガキ作れ!

げっ!!

何や
こいつ?

幸せを
反芻してる
んでしょ

……

そんなぁ
子供作るなんて…

んなこと
考えたことないし~…

こらあっ!!

どーいうつもりだ!?
きさま!!
項武(こうぶ)の女房(にょうぼう)で
なけりゃ
ただちに首枷(くびかせ)つけて
牢(ろう)に投(な)げ込(こ)んでる
とこだぞ!!

あっはっは
ごめん!
ごめん!

ま…
まあまあ
孟章将軍(もうしょうぐん)

おかげで
いい運動(うんどう)に
なったよ

もこいつ
もらっとくねー

バカをいうな
そんなので
毎日(まいにち)走(はし)り回(まわ)られたら
かなわん!!

おお
見事じゃ…

これが噂に高い
帝虎級戦艦か…
まるで山のよう
じゃのう…！

まったくです
な母上…！
我らの艦が
笹舟のようで
ございますな

ごめん！

宮括様(ていかつさま)
お話(はな)があります

公叔(こうしゅく)…
きさまぁ!!

自分(しぶん)の主君(しゅくん)を裏切(うらぎ)り
我(わ)が一族(いちぞく)に
良(よ)からぬことを
吹(ふ)き込(こ)みおって…!!

よくもぬけぬけと
顔を出せたものだ！

絞め殺してくれるわ!!

宮括様
わたしが
竜王に従ったのは
時の勢いからです

だが宮括様が
西光を忘れられぬよう
わたしもまた
自分の故郷を
忘れられませぬ

私の故郷は
この西光近く
代々西光王を
主と仰いでおりました

それをたまたま
東海に遊学中に
竜王に召された
だけでございます

だがその竜王が
西光を滅ぼすと
あらば どうして
黙っていられましょう

竜王が
西光を…

滅ぼすと…！

バカな…!!

竜王は断じて
そのようなお方
ではない!!

我が西光と
共に手を取り合い
新しい銀河を
造ろうとなさって
おるのだぞ!!

ではなぜ
公旦殿を
欲したのですか?

それは…

あれは
人質を取るより
悪どいやり方で
西光軍を
骨抜きにしようと
考えてのことですぞ

弟かわいさから
あなた様が
精鋭軍を
お付けすることまで
見抜いているのです
今や西光の
主兵力の大半は
公旦様の許に
あるのではありませんか

しかし…

いや しかし…
なぜ…なぜ竜王は
そうまでして
我が西光を…

まだおわかりに
なりませんか?

竜王は
あなたを
恐れています

竜王は天下の
掌握の仕方を
心得ております

弱き者は
撃ち滅ぼし
手強い者は
懐柔して
手なづける

しかし決して
他人と天下を
分ける気など
ないのです!!

わたしは東海より
招かれて以来
朝席に連なり
竜王という人物を
見て参りました

高く通った鼻筋
切れ長の目
胸は鷲のように
突き出て
声は山犬の如く…

このような
形相 他には
ございますまい

あれは
人間であるより

支配者であり
統治者を望んだ
面立ちで
ございましょう…!

秦宮括は
思い出した
雷と初めて
顔をあわせた
時のことを…

父親の仇である男に
見据えられ
為す術なく
ひれ伏させられたのだ

その眼光だけで…！

全身に冷たいものが
流れたあの感触を
忘れることは
できなかった…！

その竜王の五丈が
南天を滅ぼせば
天下は九分九厘
竜王のもの

……

そのような中で
どうやって
西光が生き残るの
です？

また どうして
五丈が西光を
残さねば
ならないのです

……

……
どうしろと
いうのだ？

今の西光では
生き残るのには
力が弱すぎ
逆に五丈は
強すぎる

この力関係を
改め
五丈 南天と
対等の力を
得るのです！

以前の
智・練・五丈
三国による
天下三分の状態と
同じようにするのです

その後
天命がいずれに
帰するか…
それはわたしには
わかりませぬ

ですが
人事を尽くすことにより
天命もまた
手中に引き込むことも
できましょうぞ

!!

それは…

この俺にも天下が取れるということか…!?

はい！

ニヤッ

五丈 南天を牽制しうまく戦国の世をまとめあげれば戦乱で疲れ果てた民は宮括様に感謝し天下人として迎えるでしょう

この俺が天下人に…

そんなこと考えたこともなかった

宮括様心を大きくお持ちくだされ！

いやできぬぞ！

利に走って義を忘れてどうする!!

宮括様は戦場では無敵ですが少々お人好しすぎますぞ！

「時は得難くして失い易し」ともいいますご決断ください

公叔が
のべることは
もっともだった

だが秦宮括には
決断を下せない
理由があった

それは
雷のあの目である

自分を射すくめた
あの眼光が
雷と敵対することで
どういう結果に
なるかを暗示していると
秦宮括には
思えてならなかったのだ!!

ええい
ここまでいって
まだわからんのか…!

連れて参れ!

はっ!

入れ!!

この男は?

先程参った
竜王の
使者で
ございます

秦宮括様！
これは一体
何事です!?

竜王の使者たる
わたしにこの無礼！
許されませぬぞ!!

だまれ！
西羌王様は
暴君とは
手を組まぬ！

必ずや
竜王を誅滅
させようぞ!!

こ…
公叔!!

な…
何と…!!

公叔様！
そなた大恩ある
竜王様を
裏切るつもりで
ございますか!!

さあ…
宮括様
もう後戻りは
できませぬぞ

事は決しました
そのお心を
お示しくだされ…!!

ふふ…

ひいっ!!
お考え直しを…!!
ぐわっ!!
お見事でございます
さあ皇太后様の許に参りましょう
……

皆の者よく聞けいっ!!

我々西羌の真の敵は竜王である!!

志ある者はこの俺に続けーっ!!

秦

その日のうちに
昌平太后より
改めて国王の印を
受け取った
秦宮括は
南天より送られた
帝虎級戦艦に
乗し
出陣した

目標は
北火首都
斉王都

もはや
後戻りは
許されない

意を決しての
出陣であった

動いた…！
西光軍が動き出した…！
これで南天は救われますわね…
姜子昌様…！

順調だな

五通とも
予定より
二割以上早い
速攻だ

一部では
後退する敵と
並走してる所も
あるくらいだな

最近は戦わずに
開城しちまう所も
多いみたいですぜ

だが一つ
気になることが
ある…

亜師？

抵抗を示すのは
そこの部族の
守備隊のみで
肝心の諸の部隊は
もぬけの殻が多い

整然と撤退
しているようだ

そりゃ軍師が始めにいってた敵は戦力を温存するってやつでしょ

もちろん そうだが…

南天としては避けたい諸部族の離反を促すような仕草だ

軍事上はともかく戦略上では避けたいことなんだが…

たしかに何だか余裕がうかがえますね

だが今は全軍の士気は上がりっ放しだぜ連中が何を考えようとも決戦で一発ケリがつくってもんよ！

……

とにかく我々は敵地深くに入ってるんだ

全軍に今一度気を引き締めるよう伝えてくれ

はっ！

星空を
眺めるって
柄じゃないぜ…
雷！
雲海

いやすいぶん
遠くまで来ちまった
なあと思ってな
斉王都は
あっちの方だ

遠くなったって
ことは
逆に天下は
近くなったって
ことじゃないか

そうだな

太助のやつも
連れて
来たかった…

雷…

いや太助だけ
じゃない
俺と同じ夢を
抱いた連中
皆をな

弾正公
狼刃元帥
そして正宗…
いや鞍羅兄弟も

皆 同じ夢を
追い続けたんだ

そして俺の夢の
ために死んでいった
太助や項羽達
多くの将兵…

それらの夢と血が
今の俺の礎に
なっている

同じことを
考えてる男が
この星の海の
向こうにいるな

羅候か

そうだな
あいつも同じ
想いだろうなぁ

そして天下の礎に
互いの血を必要と
していることもな

とはいえ
今回の南征は
早く終えたいな

どうして？

いやなー
紫紋のやつが
えらく心配してなあ

ほー　この色男が！
帝位より自分の
女房の心配か？

そうじゃねえ！
早く天下人になって
安心させて
やりてえんだって！

遠くなったって
ことは
逆に天下は
近くなったって
ことじゃないか

そうだな

太助のやつも
連れて
来たかった…

雷…

いや太助だけ
じゃない
俺と同じ夢を
抱いた連中
皆をな

弾正公
狼刃元帥
そして正宗…
いや骸羅兄弟もだ

皆 同じ夢を
追い続けたんだ

そして俺の夢の
ために死んでいった
太助や項鷲遠
多くの将兵…

それらの夢と血が
今の俺の礎に
なっている

空夏の雷鳴は
綺紀がいいと
聞くぜ

さあ
また荒れそうだ
中に入ろう

ああ

神貞兄さん…！
この辺りまで
来てるのかな
ぜひ
お目通し
賜りますよう…
殿！
龍緒以下
重臣八名による
連名の上奏文で
ございます…！
何？
龍緒ら
重臣どもが？
南天首都 大王理

連名だと？

ご主人様

ただ今，ご主人にお会いしたいというみすぼらしいなりの女が裏門に参っておりますが…

女？

あ…！

安心(あんしん)して…

丸腰(まるごし)だよ…ここまでの船賃(ふなちん)が ずいぶん高(たか)くてさ…

久しぶりだね

ああ…

そうだな…

俺は
どういう顔して
迎えれば
いいんだ？

昔のままで
いいよ

皮肉屋で
人を小馬鹿に
したような顔でさ…

十七

何もできなかった…
あたしには
無力だった…
強大な五丈の
壁に
とにかく
中に入れ!!
笑えよ!!

どうしたのさ
笑いなさいな…！

思いっきり
嫌味を
込めてさ…！

バカな夢を
追う女だって…

あんた
いつも笑ってた
じゃない！

さあっ!!

終わったのだ…！

終わった…？

そうだ
智での
おまえの役目は
終わったんだ

それだけだ

人間
おのずから
天運がある
正宗にもだ

だから
だれも
おまえのことを
笑わないし
笑わせはしない

う……

ああああああ

よく眠っています
少々お疲れのようですが
心配はいりません

ホッとして
気が緩んだ
でしょうな

そうですか…

それでは
これを

お腹がすいた
肉食いたい
いたしますよ

これは
どういう意味だ？

季節がら
すっぽん鍋も
よろしいかも
しれませんな

しかし
身持ちが堅いと
有名な妻将軍が
かような
女人を…

ホッホッホ
お大事に♪

…ったく

羅候に知られたら
えらいことに
なるとこだった!!

姜子昌…

ごめん

迷惑かける
つもりじゃ
なかったのに

何だ
起きていたのか
まだ
寝ていろ

医者の
見立てじゃ…

一緒にいて
くれないか…

え？

お願い…

いるだけでいい…

正宗様が
亡くなられて以来
ずっと一人だったんだ…

気がついたら
自然に足がここに
向かっていた

今晩だけでいい…

変わったな…

以前なら
自分の弱みなど
決して人前に
さらさなかったのに…

!!

龍緒様(りゅうしょさま)!!

てめえっ

龍緒(りゅうしょ)

もう一度(いちど)

いってみろ!!

我々(われわれ)は月のようなもの

その光(ひかり)で闇(やみ)を照らす

だが

太陽を失えば

月光も忽(たちま)ち

輝(かがや)きを失うのか…

和睦だとおっ!?

冗談も休み休みいえいいっ!!

いいか！我が南天は かつて和睦など 一度も望んだことはない!!

その言葉は敵が違いつくばって許しを請うて初めて口にするものだぞ!!

それを負けて和睦など結べるか!!

命乞いするぐらいなら戦って死んだ方がましだ!!

殿…今一度御心をお静めになりこの老臣の言葉をお聞きくだされ

ならもう少しましなことをいえ!!

え？

五丈と和睦？

はい
それで宰相龍緒様の
申されるには
ぜひとも奥方様の
お口添えをと…

和睦すると
もう五丈との
戦がなく
なるんでしょ♡

じゃあ
紫紋や麗羅に
また会えるわけね!!

まずは
現在の情勢を
お考えくだされ

五丈軍は
我が領土奥深くに
侵入し
民心の動揺も
広がっております

戦の勝敗は
兵家の常だと
いったのは
おまえだろうが!!

五丈軍なんぞ
そのうち
ひねり潰して
くれるわ!!

殿の武勇を
もってなら
それは
間違い
ございません

ではその後は
いかがいたしますか?

その後だとおっ?

そんなことは
わかっている!!

おまえ
宰相の身で
ありながら
何いってやがるんだ?

勝った勢いで
一気に五丈を
たいらげ
天下統一よ!!

それは
なりますまい

な…っ!!

な…何だとぉ…！

この俺に
天下をまとめられぬと
いいたいのか？

そこまで俺を
侮辱したやつは
いねえぞ！

宿老はいえ
容赦はせん！
叩き斬ってやる!!

殿！
天下の人心を
掌握してこそ
真の天下人で
ございます

ここ最近の
大きな戦で
南天・五丈共に
疲弊し尽くして
おります

人心も乱れ
きっておりましょう

今はまず
戦いを収め
産業を興し
税を免じ
兵士を家に
帰すべきで
ございましょう

土地をいくら
奪い取っても
民なくば
その天下は
絵に描いた餅に
過ぎませぬぞ

そ…
そんなこと
ただの
一時凌ぎだろうが！

いえ
この和睦を
恒久的なものと
いたすのです

これぞ
「二天両帝」
南北朝」であり
今の銀河を治めるに
最も適した
政体でございますぞ!!

一天…南北…?
な…何だ
そりゃ?

銀河を
北と南に二分し
それぞれに
帝位を立て
治めるのです

互いの存在を
認め合い
国境を定め
交易を盛んにする

武力ではなく
国造りで殿は
竜王と競い合うの
です

南北朝間の
交易は莫大な
ものとなり
国庫は潤い
民はその恩恵に
あずかり
喜びましょう

南天は南朝の皇帝が
北天は北朝の皇帝が
治めるのが一番
自然でございます

すっごぉおおい!!

ね! ね!
羅候!
そうなったらもう
五丈と戦しなくて
いいんでしょ!!

いい考えじゃ
ない!
そうしちゃい
なさいよ!!
お願い〜

ゆ…邑峻…!!

おまえ
どっから
湧いた!!

そうすれば
紫紋達も
南天に遊びに
来れるんだ〜〜

やかましい
女子供が
口出すことじゃ
ねえ!!

何よーっ!
あたしの
願いが聞けないって
いうの!!

あ——っ
うるさい
うるさーいっ!!

龍緒!
そんなこと
竜我が承知
すると思ってか!!

こっちがいい出せば
俺はいい笑いもんだ!
とんでもねえ!!

いえ
この和睦は
五丈よりからの
提案で
ございます

何？
五丈からだと？

はっ
覚えていらっしゃいましょう
大覚星英真…
あの男の発案で
ございます

彼は竜王の幕閣に
正式に参加はして
いませんが
丞相師真の弟であり
経済顧問として
政権内に隠然たる
力を持っております

朕のお許しを
いただければ
この魏縛自ら
我が屋敷に
逗留しております
英真を伴い
竜王の許に参り
和睦を結ぶよう
説きふせましょう

何とぞ
ご賢慮
賜りますよう…

そうしましょうよ

羅候…？

大覚屋英真(だいがくやえいしん)！
いるか!!
はい
私(わたし)め
でございます！
おう
殿(との)の御命(おんめい)により
迎(むか)えに参(まい)った
直(ただ)ちに参内(さんだい)せよと
おおせじゃ!!
そ…それでは…！
わかりました
すぐに参(まい)ります！

南京楼の商人
大覚屋英真！

南天王様に
お目通り
賜ります

万歳
万歳
万々歳！

……

私(わたし)の願(ねが)い
早速(さっそく)のお聞(き)き届(とど)け
ありがとうございます

勘違(かんちが)いするな！

こやつを
棒(ぼう)で打(う)ちすえろ!!

え…っ!?

そ…
そんな!!

と…殿
これは一体…!?
おやめくだされ!
羅候ーっ!
だまれ!!
こやつは
竜我のうす汚い
回し者だ!!
白状させてやる!!
それを
この場で
やれっ!!
容赦するな!
骨を砕いてやれ!!

聞く耳など
もたぬわ"

"

"

やかましいぞ
龍緒!!

何が天下を
二分するだ!
ふざけたこと
ぬかしやがって!!

そいつは
この俺に
天下を治める
器量がねえと
いってるのと
同じだろうが!!

滅相もない!!
そんなことは
申しておりませぬ

私は
南天の民のための
選択肢の一つとして…

控えろ
オイボレ!!

この腐れ傭者が…!
きさまのような
寸鉄帯びぬ輩が
しゃあしゃあと
説教たれるんじゃねぇ!!

この世は
敵の血をいかに
多く流すかで
決まるのだ!!

この俺の欲しいのは
全銀河だ!!

天に代わって
この俺が
この世の全てを
支配するのだ!!

わかったか――っ!!

龍緒!!

本来なら
叩き斬って
やるところだが
歳ゆえの迷い言として
死罪だけは
許してやる!!

早々に宰相の
冠を捨てて退がれ!!
今後目通りは
許さぬ!!

さっさと
失せろ!
目ざわりだ!!

と…殿…!!

龍将様殿のご命令でござる！

……

きようでございますかではお暇させていただきます…

今までの御厚恩感謝いたします…

殿…！

邑峻!!

は…はいっ!!

女子供は退がってろといったはずだぞ…!!

ごめんなさーい！

何をしてる！
続けろ!!

白状するまで
打て!!

諸候様
お願いです
わたしの話を
聞いてください!!

和睦は…

さあ
いえ！

竜我は
何のつもりで
おまえを和睦の
使者などに
立てた!?

何を
企んでいる!?

違う…

わたしは両国の民が
これ以上
苦しまないようにと…

まだ
いうか!!

77

どうした!?
なぜ
やめる!!

ふん!

しかし
これ以上
責めれば
死んでし■い■す

まだ
何かいいたり
ないか!
ええっ!!

ら…
羅候様…
お願いです…

両国の
和…睦を…

けっ!!

牢(ろう)におぶちこんでおけ!!

竜我(りゅうが)の目(め)の前(まえ)でその首(くび)叩(たた)き落(おと)としてくれるわ!

ぼくは
ぼくのやりかたで
この銀河に
平和を取り戻して
みせます!!

ええいっ!!

心配ごとばかり
増やしやがって…

バカが…!!

西羌に不穏な動き？

はい 尚書令様

そなたの手の者の報せかね？

軍団が集結中との報告です またドック入り艦艇の修理速度が急に早まりました

新たに五十万の新兵徴募も始まった由にございます

ふむ…

人事に変わったことは？
例えば西光王の身辺とかはどうかね？

いえ
別に…

なら問題はないと思うが…

竜王様も
楽宮括を
信頼していらっしゃるしな

しかし
三楽斎様！

そなたの勘かね？

まあ
とりあえず
孟閣殿には
一言入れておこう

その必要はございませんぞ

公叔
ただ今
西光より
もどりました

公叔様
心配いらぬと
申されましたが

この西羌の動き
この華玉には
合点がいきません

ははは
お若いのに
華玉殿は
心配性ですな

あれは西羌王が
弟君の公旦殿に
援軍を
送ろうとなさって
おられましてな

ほう
援軍を

西羌としては
実戦経験の少ない
公旦殿が竜王様に
迷惑をかけぬか
心配で
いても立っても
おられぬのでしょう

わたしが
いらぬ心配と
説き伏せるのにも
苦労しました

ふむふむ
さようであったか
ご苦労でしたな

しかし…

華玉殿！
それがしは
竜王様より
対西羌の全権を
委任されております！

西羌のことは
それがしに
任せておれば
よいのです！

よろしいですな！

それでは
それがしは
丞相への報告書を
したためなければ
なりませんので
このへんで…

うむ
ゆっくり旅の疲れを
癒されよ

……

あ
ごめんなさい！

おっとっと

こんにちは
三楽斎様ーっ

蘭々！

ハーイ

だめじゃないの
こんな所に
来ちゃ！

まだ
仕事中なのよ！

お姉様宛てに
お手紙が
届いたの

そんな物
わざわざ
持ってこな〜
ても！

だ〜〜って
大事な
お手紙だよ〜

師真様
から！

びゃ〜〜〜!!

！

三楽斎様!!

あ——
どうも
どうもこりゃ
お邪魔様で！

ねえ
蘭々ちゃん
どうなのかな
丞相とお姉さん
進展してる？

それはもう！
いい感じでさー

あーあ
でもいいわよね
玉の輿って〜

あたしも
師真様
狙ってたんだけどなー

え？
蘭々ちゃんも？
ははは？

仕方ない
次点の林ちゃんに
しとこか！

あそう…

まあしっかり者の
蘭々ちゃんなら
副軍師の部屋も
片付くだろう
けどね〜〜

え——
そんなに汚いの〜〜
林ちゃんのお部屋って〜

……

汚いというか
何というか
散らかっていてねー
わかるでしょ
どんなのか

五道より道々を
続けた五大軍は
南天北道郡の最南
北京神で一堂に会した

……

ここ後に
南天首都
日と帰の
つい日五
帰極の敵
直先を突
ぬって

後は全軍で
あるぞ！

皆
道中無事で
何よりだ

ははは――！

進撃すれば
するほど
抵抗する部族も
少なくなりました

沈む船から
ネズミも逃げ出す
申しますからな
続々と投降して
参ります

お指図通り
有力者の子弟より
その人口に見合った数の
人質を取り
斉王都に送りました

うむ…

人質とはいえ
五丈式の管理方法を
学べば
将来地方官僚に
取り立ててもやろう

秦公旦様
林則嬴様
ただ今
ご到着です!!

おお
早くここに
案内しろ

秦公旦
竜王様に
拝謁いたします

ああ
堅苦しい
あいさつなど
抜きだ!

お手柄だった
ようだな
公旦殿!

そなたの戦いぶり
この林から
詳しく聞いている
国の兄上も
たいそう喜んで
いたぞ

はは――っ
ありがたきお言葉!
期待を裏切らずにすみ
安堵しております!!

いや
そなたには
元々兄君に負けぬ
才があったのだ！

この竜我
無理をいって
西羌王よりそなたを
借り受けて
幸運だったぞ

身に余る
光栄にございます！

二度の勝利は
竜王様の天威が
もたらしたものと
感謝しております

それで…
そいつが
徐家溝で
捕まえた敵将か？

はい

徐家溝の
守将で
南天王の一族
羅真義で
ございます

それ故
処分は竜王様に
お任せいたしたく
連れて参りました

ほう
羅候の一族か…

ここは一つ
首ぶった斬って
威勢をあげようぜ！

いや…

考えがある…

獣につないでおけ！

こいっ！

……

竜王様

軍師様の
お姿が
見えませんが？

ああ
師真か？

いや なんだか
流行病らしくて
ふせっているぜ

そうですか…
慣れない気候と
激務のせいかも
しれませんね

大事に
いたらなければ
よろしいのですが…

まあ
医者の見立てでも
大したことないらしい
からな
心配するな

そっちの方(ほう)はもういい！

他(ほか)には…

他(ほか)には…何(なに)かないか!?

はっ

さすれば今一(いまひと)つ…

宰相(さいしょう)である龍緒(りゅうしょ)が更迭(こうてつ)されました

何(なに)!?

何(なん)でも南天王(なんてんおう)に五丈(ごじょう)との和睦(わぼく)を説(と)き逆鱗(げきりん)に触(ふ)れたとか…

龍緒は南天では
数少ない穏健派の
代表…！

い

もしも俺が和睦を申し出るならまずこの龍緒の懐柔から始めよう…！

その龍緒が羅候に和睦を説いて失脚したとなれば…

英貞は…!!

か…拿玉からの返事はまだか!?

は…はあ

未だに…

この大覚師真と

あろうものが

自分の弟救出に策の一つも浮かばす女に知恵を二に一借りねばならんとは…

笑え…！華玉…!!

申し上げます！竜王様のおこしです！

何!?

おい！おまえ達は早く退がれ!!

早く早く!!

うぐぐ ゴホゴホ

コホン
コホン
あ～～～
苦しい…！
コホ
コホ
コホ
コホ
師真！
あ…
おお～～
何だ
雷か
いやこの通りでな…
ゴホ
頭も上がらなくてよ…
このままで
失礼するぜ
し・し・ん…

やっぱり
おまえ 俺に
何か隠してるな！

ホホホ

下手なんだよ
仮病が!!

……

何だ
何だ
水くせーぞ！
いえよ！
俺にだって
力になれることも
あるぜ！

いや…

これは
おまえには
関係ないことだ…！

あっ
そう

どうだ
これでも
話して
くれないか？

あ

あたたたた!!

っ!!

どうだ
どうだ
ほれほれ！

ぐぎぃぃっ!!

このまま
折っちゃおうかな〜

あ——っ

わかった！
わかったから
それやめろーっ!!

よーし
どうやら
白状する気に
なったみたいだな

さあ
何だ？
俺への
隠し事って！

こ…このお〜〜っ

拷問にかけて
までも
人の秘密が
知りたいか!?

!

一人で悩むなってんだ!!

狼刃元帥のことで俺が悩んだ時力になってくれたのはおまえじゃないか!

今度は俺の番だろ!

俺は学がないからおまえほどうまくやれねえけど何とかしてやりてえんだ!

おまえが悩んでる姿なんか見たくねえんだよ!

いってくれよ!頼むから…

雷…

スマン…

実は…

英真が…

英真が？

未だに
羅候の許から
もどって来ないのだっ!!

南天首都　大王理

殿！
龍緒様は
長年に渡って
練王朝に仕えし
大功臣でございます

文武百官に対する
押えもよく効いており
皆 畏敬の念を持って
接しておりました

宰相を替えるは
床柱を替えるようなもの
今 国家大事のおり
軽々しく宰相を
替えるはよろしく
ございません

どうか
御明察を！

くどい!!

たしかに奴が
南天のために
公正無私に
働いたことは
認めよう！

父上は俺に
龍緒を師と仰ぎ
庶政はことごとく
奴に委せよとまで
いったのだ！

だが奴は増長し
この俺に指図
するように
なりやがった!!

竜我との
決戦を前に
和睦を説き
群臣をそそのかすなど
裏切りにも
等しい行為だ！

どうして
許しておけるか！
首をはねられても
文句はいえまい!!

龍緒様は
物事の洞察に
優れたお方…

和睦を申し
入れたのも
お考えあっての
ことだと存じます！

じゃあ
俺には
考えがないって
いうのか!!

もういい！
これ以上
龍緒のことを
とやかくいうと
また鼎に油を
煮立ぎらすぞ!!

は…

はは～～～！

…ったく
どいつも
こいつも…！

これも
あの英真とやらが
元凶だ！
つまらぬことを
吹きこみやがって…!!

見てろ！
龍我の目の前で
一寸刻みで
切り刻んでやる!!

羅候にとっては
陣中より和睦を
唱える者がいただけでも
ショックであり怒りでも
あった
その怒りは全て
英真に向けられて
いたのだった

♪

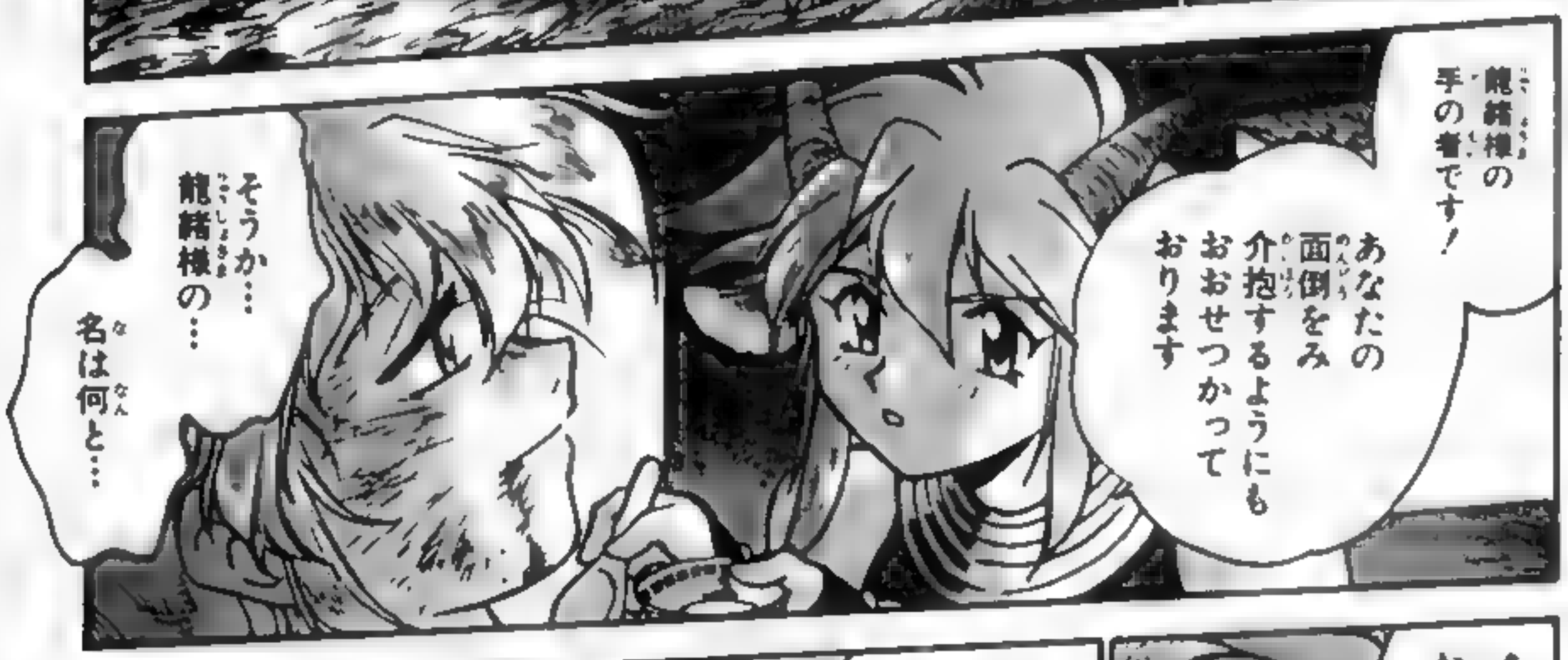
これで…

ああ
いいだろう

!

…

しっかりなさいませ
英真様！
お薬で
ございます
おぬしは…


龍結様の
手の者です！
あなたの
面倒をみ
介抱するようにも
おおせつかって
おります
そうか…
龍結様の…
名は何と…

願ってお呼びください
あなた様は
銀河にとって
大事なお方と
承っております
機を見て
必ずや
この牢より
お救いいたします
ありがとう…

私も
こんな所で
朽ちるつもりは
ない…

痛めつけられ
逆にさらに
和睦への熱意が
湧いてきたよ

ふふふ…

宰相様には
ご安心くださいと
お伝えください

……

はい…

そうか…
和睦をな…

英真は
血を見るのも嫌がる
優しい男だ

この間の戦で
南京楼が
焼け落ちたのが
相当に応えたらしい

南京楼が
灰塵と化したのは
俺にも責任がある

そのことが
芙真を追いつめたなら
悪いことをした

雷！
いっておくが
これは俺の
家中のことだ!!

あいつが
勝手にしでかした
ことであって
おまえにも五丈にも
何の関係もない！

真の強者は
戦も和睦も
思うがままだろ？

だが
その力を持ってしても
敵の懐深くにいる
同朋を救えるか
どうかは
また別の話だ

雷…！
やってみようじゃ
ないか…！

何か
いい手を思いつく
かもしれん

……

やっ!!
はあっ!!
もう一本(いっぽん)ーっ!!
はっ!!

ガシィ!!

まだ
まだ——っ!!

はっ!

ほっ!

ま…
まだまだっ!!

おい

!?

!?

!?

ふ…

手加減(てかげん)するといつも怒(おこ)るじゃないか

ふん!

相変(あいか)わらず容赦(ようしゃ)ないのね…

それは
何の布陣図？

！

飛龍
おまえなあ
足音を殺して
人の後ろに立つのは
関心できんぞ！

隠さなくても
いいでしょ
減るもんじゃ
ないし

まだおまえに
これを見せるほど
俺は甘くないぞ

信用
ないわね

夕食前に宮廷に行ったわね 何？

殿のお呼び出しだ

羅候の？

ああ…

宰相龍緒殿が罷免されたそうだ

宰相が罷免？ このご時勢にどうして？

龍緒殿は殿に和睦を説いたそうだ

それもいいじゃない

和睦ね

怒りも買おう

どの道南天は和睦するより生き残る道はないはずでしょう？

何をいってる？
道がないだと

あら
おとぼけ？

どうひいき目に
見たって
あなた達に
勝算があるとは
思えないわ

あなたが
いろいろ謀っても
それはいたずらに
終焉を引き伸ばす
悪あがきよ

おまえの方も
相変わらず
厳しい意見の
持ち主だな

なぜ
そう思う？

考えてみなくても
わかるでしょ
今まで南天は
常に量で押し切る
戦いをしてきたのよ

智との抗争も
数が拮抗してた
時代には
正宗様に手も足も
出なかった

倍する数を持って
初めて攻勢に
出れたのを
お忘れ？

我が南天軍が
いつまでも
そんな旧態依然の
姿のままだと
思うのか？

そりゃ
あなたの指導の
おかげで
少しはマシに
なったでしょうけど…

南天はその軍勢の大半を六紋海で失ったわ

あなたの手足となるべく子飼いの将もろともね

あなたに残されたのは野心を弄ぶことしかできない主人とわめくだけの二流の将

そして国中からひっかき集めた間に合わせの烏合の衆よ

これでどう戦う気？

やれやれ…現実を見通す才能にはこの姜子昌感服するよ

それともおまえも大覚屋英真と同じく俺に和睦を説くよう竜王に請われたのか？

そうじゃないわよ！私はねぇ!!

私は…

竜王の恐ろしさを知ってるからよ…

敗軍の将である私がいうのも何なんだけど…

竜王は恐ろしい男よ……!!

下手をすればこの南天が智のように…

いえ
それ以上の惨劇にならぬとも限らないわ…!!

私達が営々と築きあげた国も文化もそれこそ跡形もなく消し去られるのよ!
それを守ろうとする者はことごとく抹殺されるわ!!

まるで荒れ地を耕すが如く鋤と鍬で平らにならされ二度と他の芽が出ぬように塩までまかれて…

後に残るのは竜王が支配しやすい不毛地帯と従順な民衆だけよ!!

だがそれでも俺は戦う！

戦わなければならんのだ…〃

死んでしまうわ…

あなた…

大〝命〟より大事なものもある…〃

……

正宗様も同じ想いだったのか…!!

飛龍よ!

!

おまえの手助けが必要だ…!!

俺にはおまえが必要なのだ!!

そして 二度と
あの頃に
うなずければ
どんなにいいだろうか…

!!

ん…？

騒(さわ)ぐな…！

あたしは
あなたの首(くび)が
欲(ほ)しいの…!!

あなたの首が…

いつ刺客に殺替えした？

あきれた…！

一言でも命乞いすれば
その首切り落としたのに…

相変わらず動じることを知らない漢だね

今のおまえの目は本気だったからな

ならジタバタしても仕方がなかろう

ええ

俺の首がそんなに高く売れるか？

ええ本気よ

あたしはあなたの首がどうしても欲しかった…!!

少なくともあなたの首を持参していけば竜王は必ずあたしに謁見してくれるでしょうからね！

!!

そう…
生きていれば…

いつか また
どこかで会える

だから
わたしは
別れをいわない…

今 ひと度
別れたとしても…

また会えると
思っていれば
必ず…

見て！

昔のこと
覚えてる？

よく
学友とこうして
夜空を見上げて
語り合ったわね

どんなことでも
かなえられると
信じてたわ
あの頃は…

もちろん
今でも
そうだと
思ってる

翌朝
すでに飛竜の姿は
なかった

これを持っていけ
少しは足しに
なるだろう

布陣図？

ありがとう

重大な
軍機漏洩ね

あの少々
いじ悪っぽい
笑顔を残して…

俺の前から
消えてしまった…

また会(あ)えるなどと
気休(きやす)めを
ぬかしおって…！

大将軍(だいしょうぐん)の
お成(な)り～～～

ええっ!!
大王理から
逃げ出すの!?

バカヤロウ
逃げるんじゃねぇ!

いいから
おまえはガキ共と
一緒にひと足先に
ここから離れろ!

ちょっと
待ってェ
羅候!

どういうことなの
どうしてここから
立ち去らなきゃ
ならないのさ!!

いやよ!
あたし
都落ちなんて!

うるせえ
ゴチャゴチャいうな!
これは決まったことだ!!

戦のことで
女は口出すなって
いったばかり
だろうが!!

何よ——っ!!
羅候こそ
忘れたの!!

何をだ？
何を俺が
忘れたって
いうんだ!?

龍緒の和睦の
話を蹴ったでしょ!!

それがどうした
当然だろうが！

あたし
あの時は
羅候が竜我と
雌雄を決するんだと
ばかり思っていたのよ!!

それを
何さ!!

逃げるために
和睦を蹴ったんじゃない！

恥ずかしいったら
ありゃしない!!

口がすぎるぞ
おまえ！

これは
作戦だ!!

羅候…！
作戦にも
いろいろあるでしょうけど
都を捨てるなんて
南天が
取るべき策じゃ
ないわ！

あなたは
南天の盟主
なのよ!!

その盟主が
都を捨てるなんて…

……

そんなことしなくても
勝つ戦い方は
いくらでもあるわよ！

だがもう
策は動いて
いるんだぞ！

一部の軍団は
すでに後方に
移動している！

そんなの
呼びもどせば
すむことでしょ！

第一どこへ
逃げるっていうの？
南蛮？
まさか妻の国に
逃げこもうなんて
いわないよね！

笑い者よ
そんなの！

あたしの好きな
羅候は
どんなに苦しい時でも
正面から
ぶつかっていったわ！

そんな
羅候を
あたしは愛したのよ！

わかった
おまえのいう通りだ

この策は
考え直そう

ほんと!!

うれし――♡

それでこそ
羅候よ!!

絶対
竜我に勝って♡

ああ
おまえや
ガキ達のためにも
俺は竜我に
勝ってやる!!

殿(との)！

おう
姜子昌(きょうしそう)か

ああ
そのことか

その策(さく)は
取(と)りやめだ！

五丈軍(ごじょうぐん)が
北京沖(ほっけいおき)に終結(しゅうけつ)
しております！

都(みやこ)より
お立(た)ち退(の)きを
お急(いそ)ぎなされませ

何(なん)ですと!!

それは一体
いかなるお考えで
ございますか!?

敵が迫ったからといって都を捨てるなどこの俺にはできぬ！

あの策はもう忘れろ！

私の策の理由は詳しく申しあげたではありませぬか!!

その西光がもう動いているのです

我々が動かなくてはこの作戦は破綻し南天は危機に陥りますぞ！

いいか 妻子 これは俺と五丈との戦いだ！西光なんぞ関係はない!!

ああ聞いた西光との挟み撃ちだろう

やつらの手を借りるなど問題外だ！

殷！
はっきり申し上げます！
今の五丈には
南天一国では
とても太刀打ち
できません！

この通りで
ございます！
何とぞ
我が策に従って
くだされ！

ひかえなさい
姜子昌！

あなたね！
羅候にあんな
下策を進言
したのは!!

自分の国に
侵入した敵を
追い払うのに
他国の力を借りて
それで南天の盟主の
体面が守れると
いうの!!

体面なんぞ
気にしてる
場合では
ありませぬ！

南天の盟主の
名などお捨てなされ！
殷はその上の天下人を
狙っているのですぞ!!

名誉と誇りを
捨てて
何が天下人よ！

姜子昌！
あなた 殷の
最年の友人で
ありながら
どうして殷の
気持ちを酌もうと
しないの!!

やめい
二人共！

殿！

羅候！

養子昌！
南天の盟主には
それに相応しい
戦い方がある！

もういうな！

殿…

殿は
臣下よりも
女の言葉を
大事にいたしますか…！

無念で
ございます…！

えっ…

いや…

バ…バカをいうな!!

いいか
よく考えてみろ
以前おまえが
進言してくれた時と
状況が変わったんだ！

あの頃は
こっちも
ジリ貧だったじゃ
ねえか！

だが
今はもう
あの頃とは
違う！

戦艦も次々と進水し
兵も続々と
集まってきている！

兵力で
五丈には
決して引けは
取らねえ！

後はおまえの
頭さえありゃ
竜我を完膚なき
までに
打ちのめせるんだ!!

殿…
お言葉では
ございますが…

百年兵を養うと
申します…
真の精鋭は
一朝一夕で作れる
ものではございません…！

殿！
姜将軍の
申される通りで
ございます

何とぞ
大将軍の持久作戦を
用い
兵を訓練する
時を稼ぐべきです！

贅沢いうな！

一戦交えれば
余計な訓練なぞ
無用だ!!

戦場で
兵を鍛える!!

未熟な兵士では
足手まといに
なるのが必定！

ようし
兵を集めろ!!

俺が活を
入れてやる!!

羅候

ふふふ
たしかに
烏合の衆だ

だが見てろ
俺が運中の
目の色を変えてやる!

皆の者よく聞けいっ!!

いよいよ五丈の連中と雌雄を決する時がきた!!

だが怖れることはない!
やつらは難行軍の末に辿りついたようやく辿りついた半病人だ!

景気付けに皆殺しにするには手頃な相手だ!!

それだけではない！
やつらの刀や槍
船や食料
そして金銀財宝
奪った物は全て
おまえ達の物に
なる！

捕虜も兵士一人につき
二名まで公平に
分配する！
奴隷として
叩き売ってやれ!!

分捕った物は
全て
俺達の物だ!!

そうだ！
殺し奪うのだ!!

やつらを殺して
金持ちになるんだ！
一生お目にかかれない
宝の山だぞ!!

見ろ！兵士共の目の輝きが違うだろうが！

ええっ!?

殿…これではただの盗賊の集団です…！

軍隊とはいえませぬ…！

うるせえ！土台どこの兵士も恩賞目当てなのに違いねえだろうが!!

もちろん俺だってアメばっかり与える気はねえ鞭もくれてやる！

俺直属の近衛軍団を連中の後に配する！

もし戦場から逃げだそうとでもしやがったら容赦なく弾浴びせてやらぁ！

……

こうすりゃどんな兵士でも死に物狂いで戦うってもんだ!!

どうした？
姜子昌

この兵士では
戦えねえって
いうのか!?

……

そうなのか!?

はっきり
いってみろ!!

残念ながら…
今のまま戦えば
我らの屍が
星の海を埋めましょう

そうか…

わかった…

よーく
わかった!!

戦えねえって
奴に軍を
まかす気はねえ！

大都督の印を
返せ!!

わかりました…
お受け取り
ください！

ふん！

お待ち
殿！
姜子昌様は
天下に名にし負う
名将でございます！

俺が凱旋するまで
大王理の留守居役を
命じる!!

大将軍を
任から解く
五丈を
喜ばすだけで
ございますぞ！

うるせえ！
俺の決めたことに
文句をいうな!!

出陣だ!!

うって出て
竜我の首を
はねるのだ!!

腰抜けと
呼ばれたく
なければ
俺に続け!!

お…
おう!!

殿に
遅れるな!!

殿!
お待ちください!

殿!

我々も
参ります!

だがそれは
大都督 姜子昌
宰相 龍紹という
両翼の翼をもぎ取られた
いわば押えを失った
軍勢であった

こうして
羅候率いる南天軍は
北京沖での五丈との
会戦に臨むべく
全軍挙げて
出陣した

羅候様が出陣なされたと？

はい 今朝早く…

そうか… もう全面衝突は防げないのかもしれないな…

だがわたしはまだあきらめていない

わたしや龍緒様の言葉に南天王が耳を貸さなかったのは南天の置かれている現状にまだ気付かれてないからだ

わたしもいつまで生かしてもらえるかわからぬが…

何としてでも羅候様の目を開かせなくては

さあこれを龍緒様に…

はい

それとご厚意には深く感謝していますと伝えてください

いけません
まだ
お身体が
回復なさって
いないのに
長い時間の
物書きは…

すぐ
お薬を作ります

すまない…

ここに通うだけでも
危険なのに
いらぬ心配を
かけてしまって

いえ…
これが
あたしの
仕事ですから

恐れながら
あたしは宰相様に
お仕えする下人に
過ぎませぬ

そのようなことを
聞かれても分を
越えましょう

兄上なら
うまく
口説ける
だろうになぁ

あの…

麟…
正直に答えて
もらえるか？

君の目から見て
わたしのやって
ことは
無駄に見えるか？

立派なことを
なさっていると
思っています

ふふ
お固いな

英真様は
あたし達 民草に
よかれと思われて
和睦を図ろうと
なさっています

その信念には
感服いたしして
おりました

信念とか
いわれると
照れるけど

ありがとう…

…いえ
どう
いたしまして…

あ…

殿の御命により
大覚屋芙真を
水神に捧げる生け贄として
連行する！

案内せい!!

あ…
あの…

い 今すぐで
ございますか？

あたりまえだ！
早くせいっ!!

はっ はい
ただいま…

ど…どうぞ

ど…どうする？

まだあの女
中にいるぜ！

こ…こちらで
ございます

！

あっ…!?

大覚屋英真！

殿の御命により連行する！

参れ!!

……

わかりました…！

英真様(えいしんきま)!!

南天 壺口関（なんてん ここうかん）

ここには
智領（ちりょう）に攻（せ）めこみ
孟起（もうき）に大敗（たいはい）した
金角（きんかく）・銀角（ぎんかく）二兄弟（にきょうだい）が
兵（へい）の休養（きゅうよう）も
兼（か）ねて駐屯（ちゅうとん）していた

兄者（あにじゃ）！

殿から集結の命令が届いているのだろう！　急がねば！

うむ…

姜子昌様が罷免されたそうだな

ああ　そう聞いた

弟よ　今の南天軍が姜将軍なしで五丈とまともに戦えると思うか？

え？

俺はあの六紋海の敗戦の様が目に焼きついている…！

天候・地形を駆使した　まさに神業的な戦法…　南天軍は地獄を見たのだ

唯一の頼みの綱が姜将軍だがその将軍が遠ざけられた今我々だけではとても太刀打ちできぬ！

兄者！　それでは…

まさか…!?

御使者！
はい
両将軍
はい
将軍らのお気持ちは
竜王様もよく
わかっていらっしゃいます
それ故
降伏せよとか
内通せよとは
申しません
たしかに
形勢は五丈に
傾いておるのは
わかっておる
だが我々も
長年南天の
禄を食んできた
国の危機において
叛くは不義と
いうものだ

このたびの
誼の証として
これをお受け取り
ください

これは？

五丈の将軍位の
印綬でございます！

いや!!
待たれい
降伏したわけでも
ないのに
印綬など
受け取るわけには
いかぬ！

たしかに
そうではございます
ますが
ここでお受け取り
いただかねば
竜王との交わりを
今後絶つと
いうことになりますぞ

う…

後日五丈の
天下となり
諸侯が皆
竜王になびく時
両将軍はいかなる
面目あって
竜王様に
まみえなされます？

さあさあ
決して邪魔には
ならぬ物
快く
お受けくだされ

わかった
竜王には
よしなにと
伝えていただき
たい

はい

そうか
二人共
印綬を受けたか

はい

けど これで
やつらが
味方になったの
ですかい？

いや
我々のために
動くとは
思ってはいない

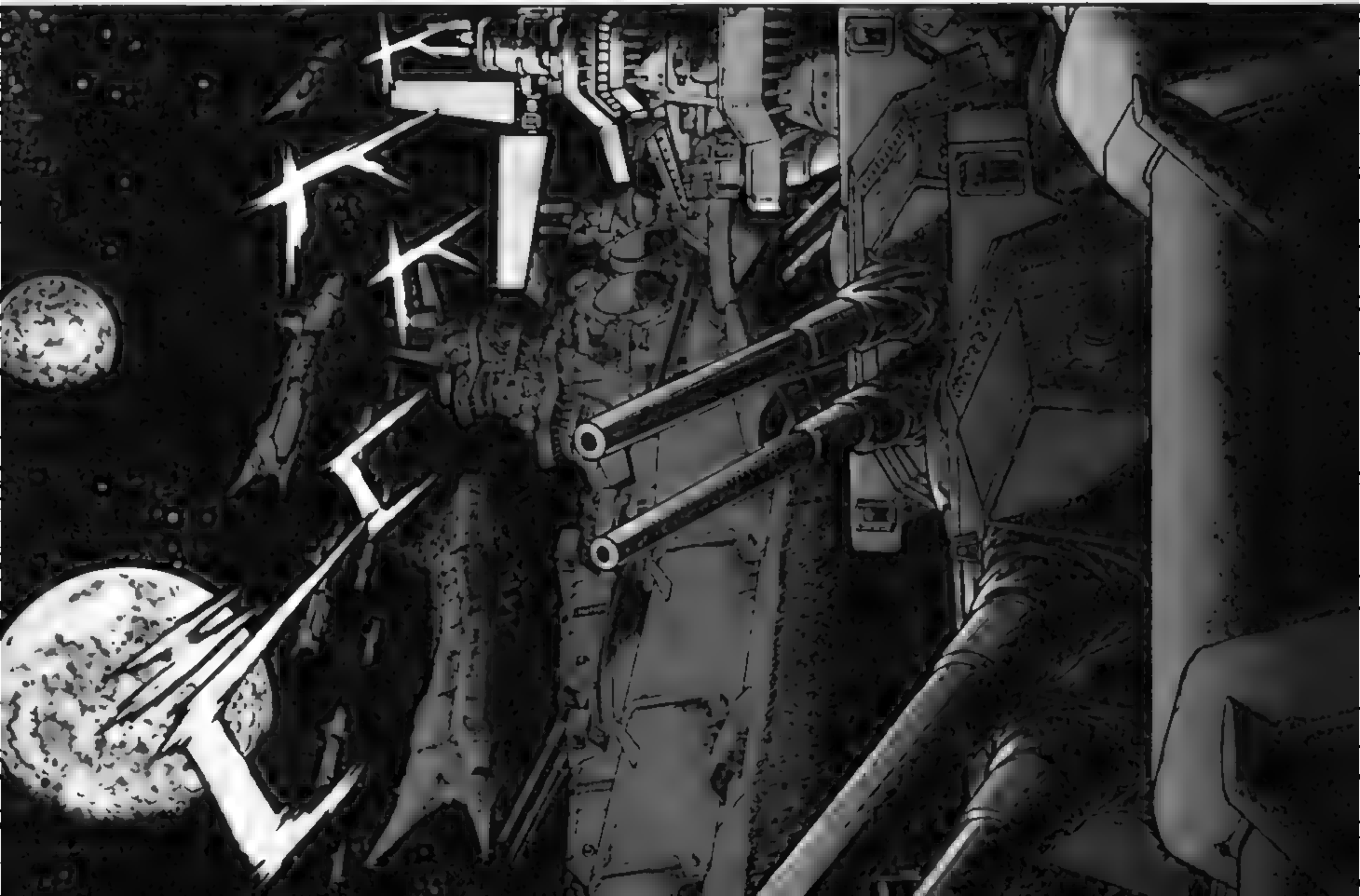
だが大きな
心理的圧迫を
加えられる

それに耐えられるか
どうかは
やつら次第だがな

宰相 龍緒に
続いて
名将 姜子昌も
除かれた！

羅候自らが
大王理の城門を
開けてくれたのに
等しい！

今度は
絶対に
羅候を
逃すな!!!



華玉様よりの
お手紙でございます

……

何て書いてあるんだ？
師真

強気で行けとある

強気で？

敵の手に乗らず
力を誇示し
攻め立てよ
さすれば
有利な条件で
英真を取り
もどせると…

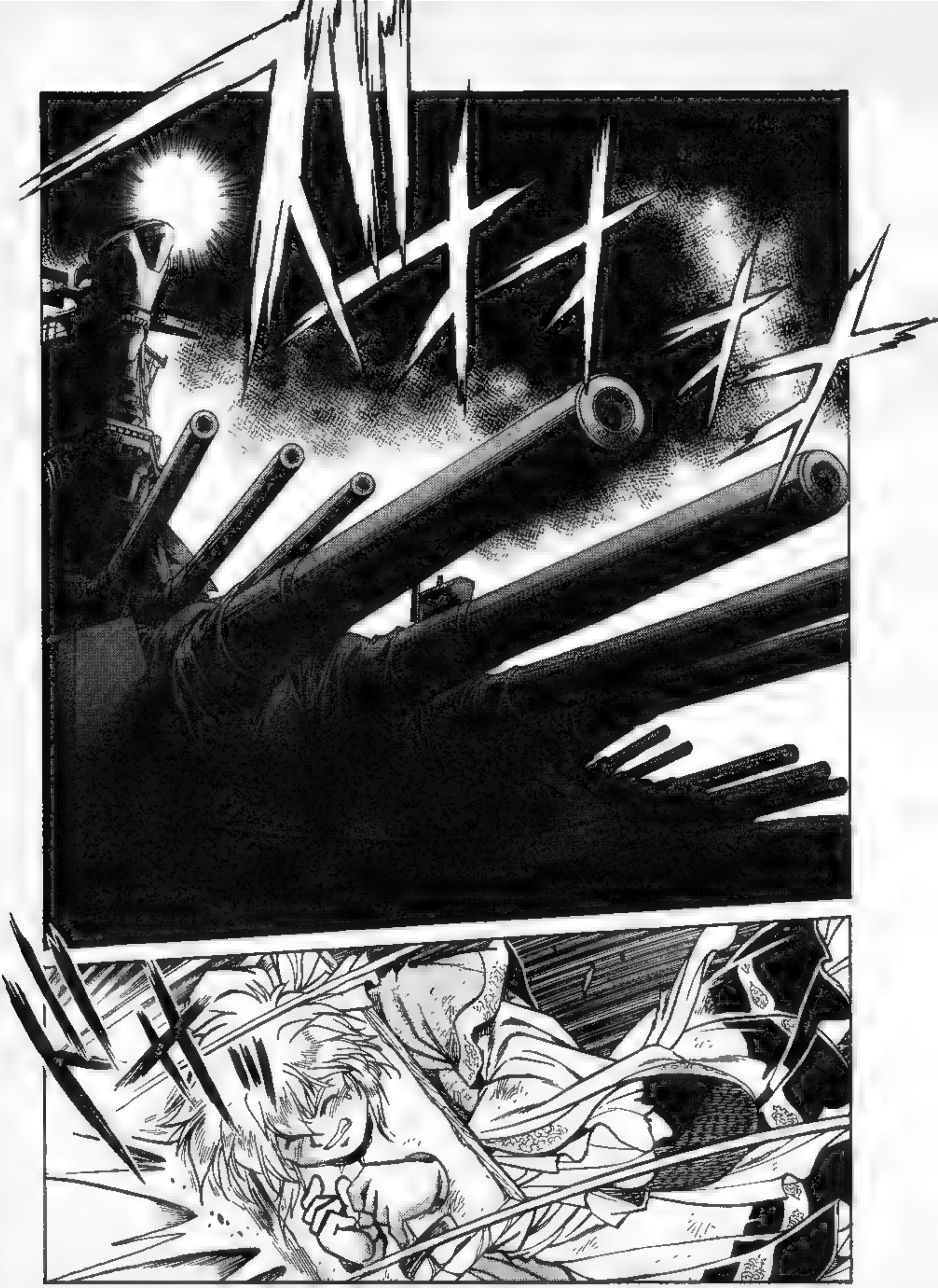
何だそれ？

そんなことして
大丈夫なのか？

……

なるほど
この師真の弟…

それだけの
価値があると
いうわけか…

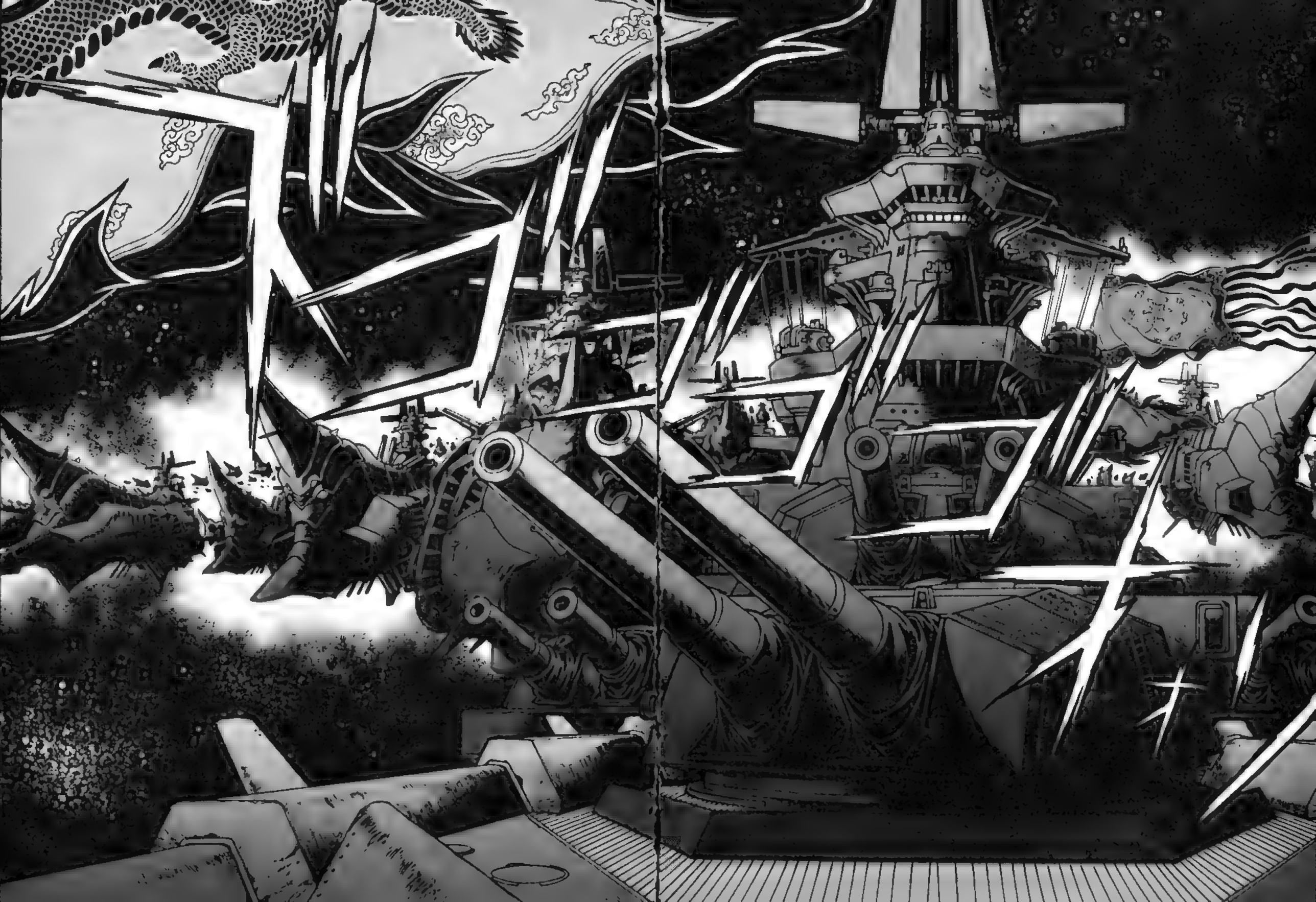


ふん！
竜我の目の前で
その首を
うち落とせば
さぞ愉快だろうな！

これ以上の
五丈軍の侵攻を
許してはならじと
羅鉄は集めた
兵二千
北京南西沖に布陣
数だけなら
五丈軍の
倍は

やがて
その目の前に
雷率いる大軍団が
その威容を現したのだった！

ゴゴゴゴゴゴ……



五文字鬼映正　金剛（二代）

左軍・右軍・
前軍・中軍・後軍
布陣終わりました!!

敵前衛との
彼我距離
二万八千!!

ほ～～～
あれだけ六紋海で
痛めつけられたくせに
よくここまで
兵を集めたもんだ

それにしても
乱れた隊列だな
新米ばかりと
見た!

……

おもしろい布陣だと
思いませぬか
竜王様

というと?

よくごらんください
敵の布陣が
三段階に
なっているのが
おわかりでしょう

最前列の第一陣は
今回羅候が
かき集めてきた
兵士達です

隊列も乱れ
軍旗も
不統一です

船も錨止め
塗装のままだとか
急遽乱造した様が
ありありと
見てとれます

彼らはおそらく
恩賞で釣られ
数を頼って
押しまくって
来ましょう

そして
その後…
第二陣を
ごらんあれ

こっちは
第一陣に比べ
数は少ないな

彼らは
六紋海での
生き残り…

数は少ないが
歴戦の兵で
構成されています

第一陣は
戦闘能力は劣るとはいえ
相手を疲れさせることは
できるでしょう

その後
第二陣である
彼らが襲い
かかるのです

そして
最後の第三陣

あの第三陣が曲者です

帝虎級戦艦と振りかざした砲身の角度まで統一されたかのような少数精鋭の軍団

あれは南天王直属の親衛軍団です

彼らは過去一度も外敵と戦ったことはないでしょう

え？

彼らが相手にするのは常に味方の兵なのです

味方の…

つまり彼らは味方が恐怖にかられ引き返せば迷うことなく砲弾を浴びせることが主な任務です

そりゃえげつないな

敵より味方に恐怖を抱くようにして戦力を高める布陣…！

数さえ多ければ効果はありますし決してあなどれませんぞ！

帝虎級戦艦が
一隻 前に
出てきます！

むう…
あれは羅候の旗艦
帝虎だ
間違いない！
特大の大将旗が
翻っているぞ！

う…っ!!

あれは…!?

英真!?

これより
竜王の手先として
南天で悪行を
重ね

五丈宰相
大覚屋師真の弟…

宰相龍緒を謀り
謀叛を企てた
張本人…!

大覚屋英真を…！

打ち首にして…！

その首を水神に供する!!

英真…！

どうだ？

何かいいたいことはあるか？

このネズミが！

わたしは自分の信念で行動したまで…

こうなることも覚悟の上です！

ふん！いっぱしのことを…！

斬り捨ててやるわ!!

ヒュッ

ヒュッ

ヒュッ

ハッ

地獄へ行けいっ!!

〃

〃

殿!!

お待ちくだされ!!

敵に動きが…!!

竜我め…！
何を始めやがった…!?
ゴゴゴゴ…
五丈軍は
帥真の号令一箇
陣立てを変化させた
各々の船の
指揮官は
旗艦金剛から
灯火信号と
信号旗の合図と共に
整然と隊列を
組んだ

帥真は
矢継ぎ早に
陣立ての変形を
命じる

それに合わせて
軍団は
隊列を組み直す

全軍長蛇の如く
単縦陣に
引いたかと思えば
ニコドラの合図一つで
陣・四陣と分かれ

それはたちまち
囲い被さるような
横陣の超攻の陣に
変化した

その動きは
とても八百万の
大軍とは思えぬほど
見事に統率され
孔丈軍の錬度と
士気の高さを
現していた

羅鋏ら
南天の将兵は
五丈軍の一糸乱れぬ
見事な陣形運動を
憑と恐怖心の
入り混じった想いで
眺めていた

……

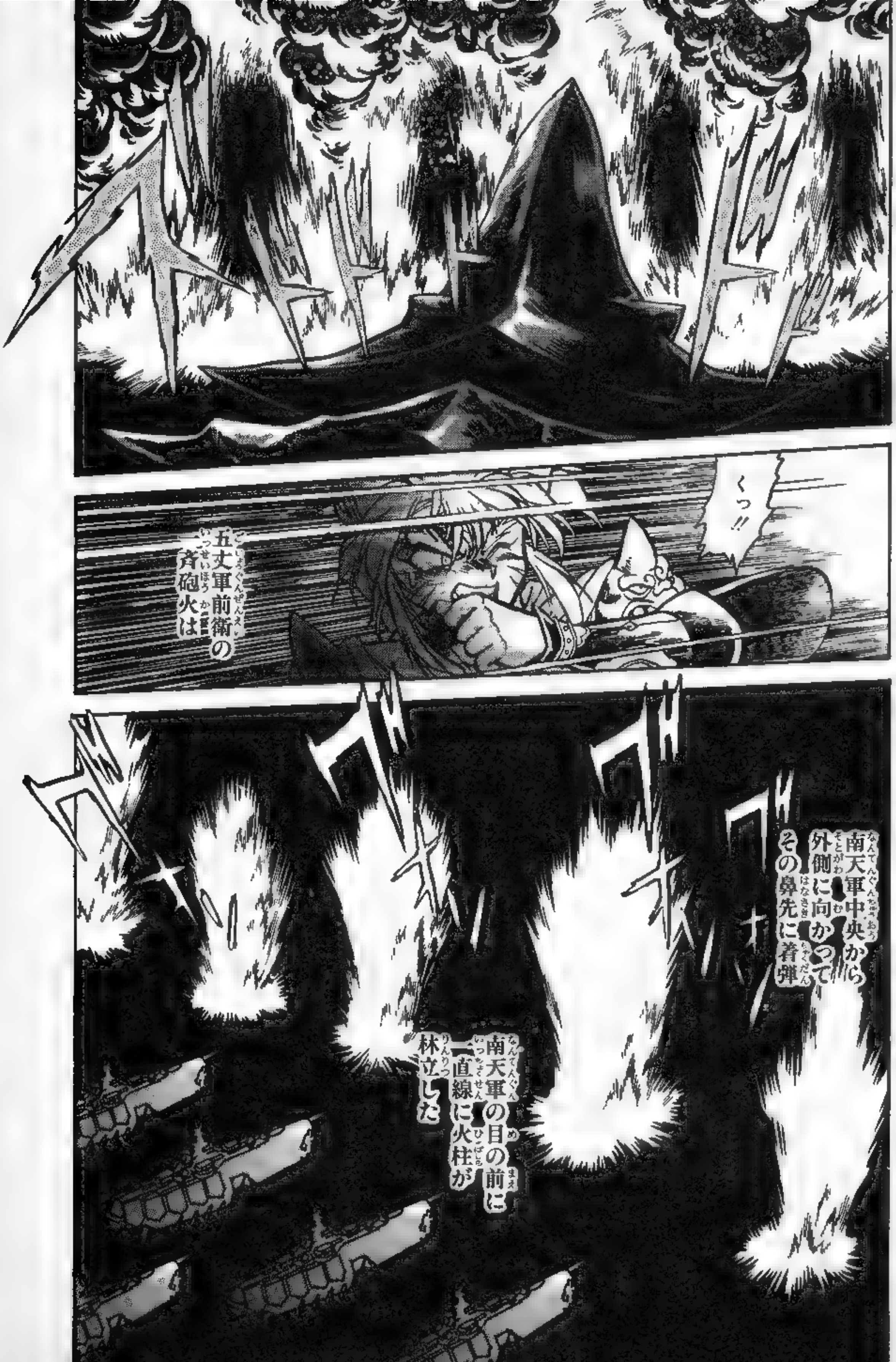
だが
羅鋏は
この五丈軍の
示威行動の
意味するものを
読みとった

しゃらくせえ
真似を…!!

ええいっ!!
つまらねえ
お遊技に構うな!!

こやつの
処刑を続けるぞ!!

な…
何(なに)いっ!?


くっ!!
五丈軍前衛の一斉砲火は
南天軍中央から外側に向かって一直線に火柱が林立した
その鼻先に着弾

これには
さすがの
羅候も生唾を
飲み込まずには
いられなかった

……

だが度肝を
抜かれたのは
彼だけではなかった
帝虎には次々と
南天の将が
集まってきた

彼らは口々に
英真の人質としての
価値を
羅候の前で
まくしたてた

今こ殿の！
お しの！
待し処刑を
ちばしばらく
待ちください！

さよう
切り札として
取っておくべきです

人質は
生かしておけば
おくほど
価値が上がるもの！

この男が
敵の軍師の
弟ということを
お考えください

飛竜のいうところの
二流の将である彼らもまた
師真の用兵のうまさは
六紋海で身にしみていた

殿！

殿！
ご明察を!!

帝虎の上が騒がしくなってきたようだな

取りあえず効果があったようだな

もう一押しといくか…

ここはこの男を人質として取っておき敵軍師の矛先を鈍らせるが賢明と思われます！

今斬ってしまわれては殿に何の益もありませんぞ!!

ええいっガタガタいうな!!

ききまらあんなコケ脅しにおじけづきやがって…

けっ
今度は
縦に並べやがったか…〃

殿！
殿の怒りを治めるには
五丈軍に勝つことが
一番でございます！

弟をここに留めおき
師真の心の動揺を
攻めるが
勝利への近道です！

ええいっ
もういうな
わかった〃

けっ!!

ドドド

全軍に命令！
ドラも鐘も鳴らせ！
雄叫びをあげろ!!

突撃だ!!

やっと
気を取り直した
南天軍は
羅候の座乗する
帝虎を中心に
五丈軍に突進していった！

男の意地か……！

や……やりやがったな……竜我あっ!!

艦をつけろ！

八つ裂きにしてやる!!

む……無茶です!! おやめくだされ!!

野望への執念か……！

出てきて……

今二人の漢が南天首都を巡って火花を散らす!!!

この俺と戦え!!

戦争の非情さに翻弄される者!!

故障中だなんて…
そんな
たわ言並べても
済まされねぇぜ!!

わからんのか
弟よ!!

主君に…
新たな世界に
夢を懸ける者!!

こいつが…!!

男達はそれぞれの
想いを胸に
ある者は倒れ
ある者は勝ちどきを
あげる!!

こいつが
そうか…!!!

銀河戦国群雄伝ライ 第22巻

南天での決戦、北京沖大会戦!!!

Dengeki Comics EX

銀河戦国群雄伝ライ㉑

1999年 8 月25日　初版発行

著者　真鍋譲治

発行者　佐藤辰男

発行所　株式会社メディアワークス　〒101-8305 東京都千代田区神田駿河台1-8 東京YWCA会館
電話03-5281-5238(編集)

発売元　株式会社角川書店　〒101-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
電話03-3238-8605(営業)

装丁　朝倉哲也+design CREST

印刷・製本　共同印刷株式会社

©JOJI MANABE 1999

R本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

初出／月刊電撃コミックガオ！'98年12月号～'99年4月号(メディアワークス刊)

ISBN4-8402-1264-3 C0979